



短歌・俳句の表現



俳句の種類

・有季定型

五・七・五の定型で季語がある

↓
歳時記 にのっている

・無季俳句

五・七・五の定型で季語がない

・自由律俳句

「五・七・五」の定型にこだわらない俳句。

切れ字

句の切れ目につかう。間をあたえて感動や余韻をあたえる

「や」「ぞ」「かな」「けり」など

その他にも

もがな・らむ・し・か・よ・せ・つ・れ・ぬ・ず・に・へ・け・じ がある。

表現技法

①直喻(ちょくゆ)…～のようにといった例えを使った技法
※例 母は鬼のような顔で怒る。

②隠喻(いんゆ)…～のようにを使わない例えを使った技法。
※例 母は鬼だ

③擬人法…人でないものを人に例える
※例 小鳥が歌う

④体言止め…名詞で文を終える技法。

⑤倒置法…「主語」「述語」などの語順を入れかえる技法。

⑥対句法…同じ構成で似た内容の「句」を対にする技法。

⑦反復法…同じ言葉や内容を何度も繰り返す技法。

⑧省略法…言葉を省略する技法。

枕詞

特定の語のまえにつけて調子をととのえる。基本5音。特に訳されず特定の語を導く

例) **たらちねの** →母 **ひさかたの** →天、雨、月、雲、空、光など **あしひきの** →山
枕詞 枕詞 枕詞

序詞

特定の語の意味を引き出す。枕詞とちがい長さやその後にくる語はきまっていない

例) **あしひきの山鳥の尾のしだり尾の** →長々し夜を 独りかも寝む
序詞 ここを導いている

掛詞

1つの音で二つの意味を表す ダジャレのようなもの。

例) まつ→松、待つ きく→菊、聞く ながめ→長雨、眺め

枕詞・序詞・掛詞のうちどの用法が使われているでしょう

たらちねの 母が手離れ かくばかり すべなきことは いまだせなくに
あしひきの 山のしづくに 姉(いも)待つと わが立ち濡れし 山のしづくに
あしひきの 山鳥の尾の しだり尾の 長々し夜を 独りかも寝む
立ちわかれ いなばの山の 峰におふる まつとしきかば 今帰り来(こ)む